

欧州銀への不安再燃

国債値下がり→資本不足→貸し渋り

景気低迷 負の連鎖

【ロンドン＝上杉素直】欧州の金融システムに不安が再燃してきた。経済大国のドイツで銀行部門の資本不足が想定より大きいとの観測が引き金だ。銀行は保有国債の値下がりでの損失処理を迫られる見通し。資本不足に陥った銀行への公的資金注入で財政悪化が進むとの連想から、独国債が売られる悪循環も浮かぶ。欧州銀が財務上の帳尻合わせで貸し渋りに走れば、世界各地で信用収縮や景気低迷を招きかねない。（1面参照）

イタリアによると、独2位のコメルツ銀行は29億ユーロとみられた資本不足が50億ユーロ後に拡大。最大手のドイツ銀行も20億〜30億ユーロの資本不足と認定された銀行は年内にも改善計画を求められ、自力の増資が難しいければ自国政府から強制的に資本注入を受（価格は下落）。25日は

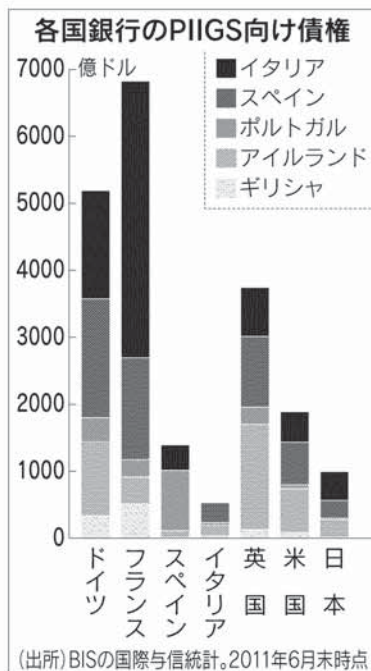
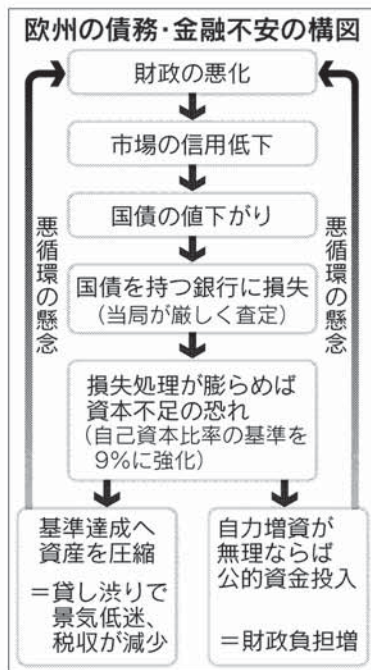
昨の資本不足のようだと伝わる。ブルームバーグ通信は25日、当初52億ユーロだった独銀全体の不足額が2倍以上の120億ユーロに膨らむとする関係者の見方を報じた。ドイツの10年債利回りは今月しばらく2%を割る水準で推移し、0.4%前後の幅で英国債を下回っていた。今週に入る独国債の利回りは上昇（価格は下落）。25日は

独仏銀の債権突出

南欧など5カ国分、90兆円超

欧州銀行監督機構（E 己資本）の資産に対する自己資本の定義や国債のB A）は11月末に銀行別比率が来年6月末までに時価をより厳しく見積もるの資本不足額を公表する9%を超すよう求める。10月末にE B Aが示した暫定試算で、域内銀行の資本不足の総額は10段階で独国債値上がりの込み、普通株と内部留保60億ユーロ（約11兆円）だ。恩恵があった独銀が受けた「狭義の中核的自った。E B Aはその後、そつだ。複数の欧米メデ

南欧を中心とする重債り、総額は1.2兆ユーロ（90億ユーロ）を超過する。財政不安の銀行に集中してお安の拡大で南欧向けに含



手をつなげた南欧では景気悪化懸念や財政不安が増幅して、独仏の含み損がさらに広がる。市場では、ユーロ圏の負の連鎖に警戒が高まっている。国際決済銀行（BIS）の国際与信統計によると、6月末時点のPIIGS（ポルトガル、イタ

独英国債とも2・2%近
辺で取引されている。

けられそうにない。

邦銀関係者によると、

し渋りや貸しはがしが横
行する心配もある。国際

資本増強の動きは急
だ。仏ソシエテ・ジェネ
ラルは今年度の配当を見
送り内部留保の蓄積を優
先する方針。南欧ではイ
タリア最大手ウニクレデ
イトが増資計画を表明し
た。スペインもサンタン

決済銀行(BIS)によ
れば中東欧やアジアなど
新興地域の対外債務に占
める欧州銀の比率は5・
9割前後。コメルツ銀は
自国やポーランド以外で
の新規融資を一時凍結す
る方針を表明した。同じ

デールとBBVAという
大手2行の資本不足が避

の「分母」の資産を手っ
取り早く減らそうと、貸
済にも悪影響が及ぶ。

リア、アイルランド、ギ
リシャ、スペイン)向け
債権残高は、ドイツの銀
行が40兆円、フランスは

の信用不安につながり
「ユーロ圏全体の国をま
たいだ負のスパイラルを
懸念して、投資家のユー

53兆円に達し、他国の銀
行分を大きく上回る。債
権には国債や社債、株式、
融資などが含まれる。

口離れが進んでいる(J
Pモルガン証券の足立正
道シニアエコノミスト)。

地理的な近さに加え
て、インフレ率が高く高
金利で運用できる南欧各
国には独仏勢が投融資を
増やしていた。通貨がユ

邦銀のPIIGS向け
債権は6月末時点で7兆
円台にとどまる。夏以降
はさらに売却を進めてお

ーロで為替変動リスクが
ないことも魅力だった。
経済規模の大きいイタリ
ア・スペイン向け債権が
過半を占める。南欧国債

産への影響は限定的(国
内証券)だ。ただ、信用
不安の拡大で世界的な株
安やドル調達環境の悪化
を通して影響が広がる可
能性がある。